

国立科学博物館や台湾自然科学博物館などの国際チームが、台湾西方沖の海底で19万年前から数万年前とみられる原人の下顎の化石を見つけた。中国の北京原人やインドネシアのジャワ原人よりも顎の骨や歯が大

▼原人 人類は猿人、原人、旧人、新人（ホモサピエンス）の順に進化した。原人から生物学上の分類のヒト属に含まれ、猿人に比べると脳が大きく足も長くなった。アウストラロピテクスは猿人、ネアンデルタール人は旧人、クロマニヨン人や縄文人は現生人類と同じ新人に含まれる。

アジア「第4の原人」?

台湾沖、下顎の化石発見

きく、2003年にインドネシアで化石が発見されたフローレス原人とも特徴が違った。

2015.1.28 本
アジアにおける「第4の原人」の可能性が高いという。成果は英科学誌ネイチャー・コミュニケーションズに28日掲載される。

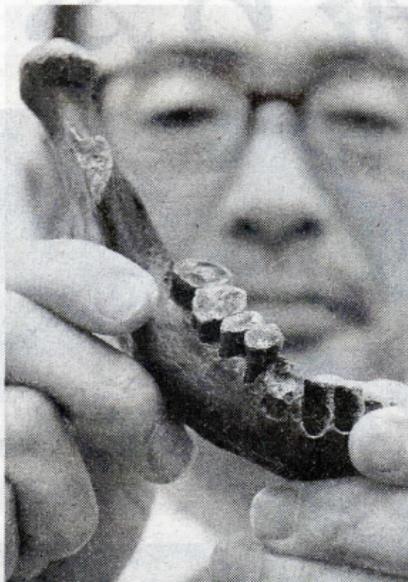
国立科博など国際チーム

化石は台湾本島と澎湖諸島の間の海底から漁師が引き揚げた網にかかり、研究チームが09年にヒトの化石と確認、「澎湖人」と名づけて10年から本格的な調査を始めた。

下顎の化石に含まれるナトリウムやフッ素の量から

年代を推定した。発見された海底では、これまでにもゾウやハイエナなど、陸上に生息する動物の化石が数多く見つかっている。300万〜1万年前の氷河期には、台湾は中国と地続きで森林が広がっていたとみられる。

北に1千キロほど離れた中国の安徽省和県では1980年代、和県人と呼ぶ原人の化石が見つかっており、特徴が似ているという。国立科学博物館の海部陽介人類学研究グループ長は「和県人と澎湖人はアジアにおける第4の原人と考えてよいだろう」と話している。



台湾沖の海底から見つかった原人の下顎の化石のレプリカ（原寸大）＝東京・上野の国立科学博物館